

弘前城石垣修理

第21回 ～令和4年度の工事を振り返る～

令和3年6月に工事を開始した「弘前城跡本丸石垣東面（北側）積直し工事」は、冬季休工を経て令和4年4月、16段中の上から12段目の石垣積み直し作業から再開しました。

築石（つきいし）一つを積み直すためには、周囲の築石も一度仮置きした上で、石の向きや角度、石同士が接する部分を調整する必要があることから、一つの石を仕上げるのに数石の移動が伴います。このため、一段積み直すのには15～20日程度の期間を必要とし、現在までに約910石の積み直しが完了しました。この範囲は、元禄期（1694～1699年）の石垣とそれらを大正4年（1915年）に積み直した石垣で構成されており、粗く方形に加工した石を横目地が通るように積む「割石の布積」といわれる積み方となっています（※1）。



▲「割石の布積」で積まれた元禄期の石垣（※1）

今年度からは、石垣背面で築石と裏込を支える土の敷均し（しきならし）、締固め（しめかため）を行いました。石垣背面に元々あった土は、平成27年の土質試験等の結果、水分を含むと変形しやすい性質と判明しており、石垣孕み（はらみ）出しの一因と考えられることから、今回の積み直

しでは、解体時に取り除いた土に変形しないよう改良材（生石灰）を加え、補った上で再度石垣背面に埋め戻しています（※2）。



▲石垣一段の仕上がり状況（※2）

また、8月には大雨が続いたことで、石垣背面に新たな湧水地点が複数発生しました。この際、過去の調査で使用していた観測井戸でも地下水位の上昇が確認されており、過去の記録を大幅に超える総降雨量が影響したものと考えられます。これらの湧き水は、天候回復後には見られなくなったものの、将来的に今回以上の大雨が発生する可能性があることから、地山からの湧き水を裏込へ排水できるよう、追加の対策を講じました（※3）。新たな湧き水は、地山が見えている今のタイミングでなければ確認できなかったため、今後の石垣を左右する大きな発見となりました。



▲湧き水対策設置状況（暗渠〈あんきょ〉排水）（※3）

令和5年度からは、いよいよ重要文化財・弘前城天守が載る南側工区の積み直しに着手します。南側工区は、北側工区と築石の積み方が異なるほか、天守台部分の高さ修正が必要となるなど、より難しい工事になることから、引き続き慎重かつ丁寧な工事を行います。

弘前城本丸石垣修理事業の詳細 <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/ishigaki/index.html>

弘前城跡の文化財修理情報『弘前城かわら版』 <http://www.city.hirosaki.aomori.jp/jubun/2022-0331-1107-48.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前市緑の相談所内、☎ 33-8739）